

一般社団法人プロジェクトマネジメント学会

2022年度定時社員総会資料

2022年3月10日（木）

2022年度定時社員総会式次第

時間 15:00 ～ 16:30

場所 定款および細則の規定にもとづくオンライン開催

1. 開会宣言(社員総会成立要件の確認)
2. 議長指名及び書記指名
3. 第1号議案 2021年度事業報告
4. 第2号議案 2021年度決算報告
5. 第3号議案 繰越収支差額処分
6. 第4号議案 名誉会員（フェロー）選出
7. 第5号議案 年会費免除者選出

報告

8. 2022年度事業計画
9. 2022年度予算
10. 閉会宣言

一般社団法人プロジェクトマネジメント学会ビジョン：

プロジェクトマネジメントを学問・技術の体系として整備，確立，発展させ，国際社会に寄与する．そのために，広く様々な分野から参画する多数の会員により，常にオープン，中立的，協調的かつ学際的で活発な活動を展開する．これにより，学術的に優れた研究成果，技術および実践面での向上，プロジェクトマネジメントの一層の普及を実現するとともに，企業・産業・社会・経済・学問・文化の発展に貢献し，参画する会員に動機と達成感を与え成長し続ける学会を目指す．

一般社団法人プロジェクトマネジメント学会役員等一覧（2021・2022年度）

| | | | | | | |
|---------|-------------|-----------------------|--|--|---|---------------------------------------|
| 理事・会長 | 小玉 浩 | 日本電気 | | | | |
| 理事・副会長 | 関 哲朗 | 文教大学 | 上坂 貴志 | キンドリルジャパン | 橋本 亨 | 富士通 |
| | 富安 寛 | NTT データ | 細矢 良智 | 日立製作所 | | |
| 役職 | 理 事 | | | | 幹 事 | |
| | 委員長 | | 副委員長 | | | |
| 委員会 | | | | | | |
| 総 務 | 小笠原 浩 | 日本電気 | 橋本 直樹 関 哲朗* 竹内 俊一 上坂 貴志* 細矢 良智* 古庄 裕司 | 日本電気 文教大学 NTT データ ビジネスシステムズ キンドリルジャパン 日立製作所 富士通 | 酒井 理江 竹内 浩 神野 学 横山 敦弘 金澤 浩平 | 日本電気 日本電気 日立製作所 日本電気 日本電気 |
| 論文審査・編集 | 横山 真一郎 | 神奈川大学 | (編)橋爪 宗信 (編)西村 忠興 (編)小笠原 秀人 | 日立造船 NTT データ 千葉工業大学 | | |
| 研 究 | 木野 泰伸 | 筑波大学 | 黒田 恭司 | 日本アイ・ビー・エム | 皆川 恵一 | 日本アイ・ビー・エム |
| 行 事 | 鴻巣 努* | 千葉工業大学 | 佐藤 奈津子 佐野 祥一朗 井上 裕美 福田 靖 古庄 裕司 | 日立製作所 NTT データ 日本 IBM デジタルサービス 日本電気 富士通 | 大崎 雄治 | 日本アイ・ビー・エム |
| 広 報 | 平田 裕見 | 富士通 | 富安 寛* | NTT データ | | |
| 教育・出版 | 渡辺 丈士 | 日立ソリューションズ・クリエイト | 野中 誠 | 東洋大学 | | |
| 標準化検討 | 関口 明彦 | | 尾崎 厚介 | 日本アイ・ビー・エム | | |
| 表 彰 | 谷本 茂明 | 千葉工業大学 | 橋本 亨* | 富士通 | | |
| 会長付 | 大南 正裕 | 日立製作所 | | | | |
| 監 事 | 井沢 澄雄 | 日本電気 | 浦川 伸一 | 損害保険ジャパン | | |
| 本部運営管理室 | 室長 関 哲朗* | 文教大学 | | | | |
| 顧 問 | 中内 伸二 | STNet : 四国支部長 | 白石 善博 | ニシム電子工業 : 九州支部長 | 井上 俊博 | ハイエレコン : 中国支部長 |
| | 太田 知良 | NTT データ東海 : 中部副支部長 | 菅谷 博文 | 三菱電機 : 関西支部長 | 川上 敬 | 北海道科学大学 : 北海道支部長 |
| 附属研究所 | 所長 河合 輝欣 | ユーエスイー | | | | |

(注1) 氏名の*は，兼務者 (注2) 論文審査・編集委員会の(論)は論文審査担当，(編)は学会誌編集担当
(副会長の広域担当)

総務担当：関 哲朗，上坂 貴志，細矢 良智，行事担当：関 哲朗，広報担当：富安 寛，表彰担当：橋本 亨

アドバイザリ・ボード (大野 治 議長，河合 輝欣* 顧問)

| | | | | | | |
|---------|------|------------|------|-----|-------|-------|
| ボード・メンバ | 加藤 洋 | 日本アイ・ビー・エム | 林 恒雄 | 富士通 | 徳永 俊昭 | 日立製作所 |
|---------|------|------------|------|-----|-------|-------|

第1号議案 2021年度事業報告

1. 「事業概況」(会長：小玉 浩)

新型コロナウイルス感染症による危機に際し、様々な医療現場で収束に向けて対策に奮闘されている皆様に心より敬意を表します。また、尊い命を落とされた方々のご冥福をお祈りし、治癒に向けた困難な生活に向き合われている多くの方々に心よりのお見舞いを申し上げます。

2019年末に始まった新型コロナウイルス感染症の拡大は、2021年度も引き続き学会活動に影響を及ぼして参りました。学会としては、会員の安全と学会活動の両立を念頭に集合型イベントのオンライン開催への切り替えなど、社会状況に合わせた対応を会員の皆様のご理解の下で実施して参りました。

2021年度は、以下の運営方針に従い、諸活動を行ないました。

- I. プロジェクトマネジメントを通じた社会貢献の実践
- II. プロジェクトマネージャの地位向上、プロジェクトマネジメントの一層の普及に向けた幅広い議論の場の提供
- III. 学会の運営基盤の充実

I. プロジェクトマネジメントを通じた社会貢献の実践

世界72カ国の代表団体によって構成されるIPMA(International Project Management Association)の会員として、CoD(Council of Delegates) MeetingやWorld Congressに代表を送るなど、国際的なアライアンス活動に積極的に参画しました。これらの活動を通じて、プロジェクトマネジメント分野の国際的な協調活動を実施し、本学会の国際的認知度向上による会員の皆さまの地位向上と活動の場の拡大に努めました。IPMAとの連携に関しては、IPMAからの知財の提供、主催国際会議ProMACへの協力を頂いている他、2022年のIPMA World CongressとProMACとの共催に向けて調整を進めています。

その他のIPMA関連の活動では、資格認定試験と若手プロフェッショナルの交流の場であるYoung Crew(以下、YC)活動を継続して推進いたしました。資格認定試験が安定的に運営できる体制・プロセスを作るためにスキームコミティメンバ、アセッサ、事務局メンバを増員し、IPMA規則の輪講会を行う中で運用マニュアルを策定し、国内初の公開試験を実施しました。YC活動では、2022年にWorld CongressとProMACとの共催行事に近接開催されるGlobal Young Crew Workshopの成功確保に向けて、海外のYCとの交流イベントを開催しました。また、春季大会およびProMAC2021に参加することで、YC活動の拡大を目的とした活動を行っています。

II. プロジェクトマネージャの地位向上、プロジェクトマネジメントの一層の普及に向けた幅広い議論の場の提供

コロナ禍がNew Normalを加速させており、引き続き、プロジェクトやプログラムを運用する上でのプロジェクトマネージャの新たな役割や取組みについて考え、意見交換する場が重要となっています。

論文審査・編集委員会では、投稿された論文が20編となり、前年度の11編に比べて大幅に増加しました。また、selected paper制度を創設し、ProMAC2021の掲載論文の中から査読者により推薦された論文を学会誌に採録できるよう審査を進めています。学会誌、ニューズレターは、目標通りに各々6回の発行を行うことができました。

標準化検討委員会では、IPMA関連ドキュメントであるICB4.0の翻訳作業を完了し、新たにISO 21500ファミリのドキュメントの内容を分析し、会員に向けて情報提供を行う活動を開始しました。

研究委員会では、今年度は新たに「情報システム判例研究会」を立上げ、6つの研究会が活発に活動しました。学会誌には毎号「研究会報告」を掲載し、各研究会の活動状況の報告を行いました。また、秋季研究発表大会およびProMAC2021での発表などを通して、プロジェクトマネジメントに関する議論、知識共有の場の提供、情報発信などを積極的に行っています。

行事委員会では、3月11日・12日に春季研究発表大会を開催しました。新型コロナウイルス感染症予防の観点から、オンライン開催としています。本大会には57件の発表を得て、304人の参加がありました。また、ProMAC2021および秋季研究発表大会を併催として11月25日・26日の両日にハイフレックス方式で開催しました。発表数は計154件で、422人の参加がありました。

教育・出版委員会では、表彰記念出版物の刊行を1年振りに再開し、秋季大会・ProMAC2021にて頒布活動を行いました。教育分野では、ドラフト版の「学部生に向けたプロジェクトマネジメント標準カリキュラム」の作成を理事会に報告し、併わせて有識者によるレビューを実施しています。また、プロジェクトマネジメント教育の新たな軸として「新時代のプロジェクトマネジメント事例集（仮題）」の出版準備に取り組みました。

Ⅲ. 学会の運営基盤の充実

表彰委員会では、学会活動の活性に向けて、表彰制度の一層の充実に努めました。春季大会、秋季大会およびProMAC2021では、学生研究発表賞およびPM実施賞各賞の表彰および受賞記念講演を行いました。2021年度の表彰は、学会賞2件、PM実施賞本賞1件、PM実施賞1件、PM実施賞奨励賞1件、PM実施賞エクセレント・パートナーシップ賞1件、学生研究発表賞5件の表彰を行いました。

広報委員会では、ミニイベント「シニアPMと語ろう」を2回開催した他、新春PMセミナーをオンライン形式で開催し、約220名の参加者を得ることができました。

総務委員会では、本部運営管理室との協力の下、本学会の諸活動全般を支援しています。また、会員数の維持、拡大による運営基盤の確立を目指し、ホームページや各種資料の最新化、情報充実等を図ることで本学会への参画に向けた訴求力の強化を目指しています。本委員会と本部運営管理室の活動には、理事会およびアドバイザー・ボードの開催、学会発行書籍のISBN、ISSNの管理なども含まれています。

各支部と本部との連携も総務委員会の下で行われ、各支部では以下のような活動が行われました。

① 四国支部

支部総会を開催するとともに、年次研究大会と研究会を2回開催しました。

② 九州支部

支部総会を開催するとともに、ハイフレックス形式での開催となった秋季大会およびProMAC2021の現地開催をメルパルク熊本にて実施いたしました。

③ 中国支部

支部総会、特別講演会は中止とし、オンラインセミナーを1回開催しました。

④ 中部支部

シンポジウムを含む支部総会を開催するとともに、トワイライトサロンを1回開催しました。また、BABOK研究会を開催し、その成果をシンポジウムで公開しました。

⑤ 関西支部

支部総会を開催するとともに、シンポジウムを2回開催しました。また、3つの支部研究会にて研究発表や事例紹介の活動をいたしました。

⑥ 北海道支部

支部創設10周年記念講演を含む支部総会を開催しました。

第2号議案 2021年度決算報告

貸借対照表

2021年12月31日現在

(単位:円)

| 科目 | 当年度 | 前年度 | 増減 |
|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| I. 資産の部 | | | |
| 1. 流動資産 | | | |
| 現金預金 | 118,057,451 | 121,315,076 | △ 3,257,625 |
| 未収会費 | 2,831,000 | 2,722,000 | 109,000 |
| 未収金 | 6,460,616 | 5,026,993 | 1,433,623 |
| 貯蔵品 | 1,606,734 | 1,481,616 | 125,118 |
| 前払費用 | 104,763 | 104,763 | 0 |
| 仮払金 | 0 | 263,703 | △ 263,703 |
| 流動資産合計 | 129,060,564 | 130,914,151 | △ 1,853,587 |
| 2. 固定資産 | | | |
| ソフトウェア | 3,071,063 | 0 | 3,071,063 |
| 差入保証金 | 1,200,000 | 1,200,000 | 0 |
| 固定資産合計 | 4,271,063 | 1,200,000 | 3,071,063 |
| 資産合計 | 133,331,627 | 132,114,151 | 1,217,476 |
| II. 負債の部 | | | |
| 1. 流動負債 | | | |
| 未払金 | 6,222,431 | 4,485,425 | 1,737,006 |
| 前受金 | 5,215,000 | 7,931,000 | △ 2,716,000 |
| 預り金 | 32,968 | 30,668 | 2,300 |
| 未払消費税 | 0 | 43,800 | △ 43,800 |
| 流動負債合計 | 11,470,399 | 12,490,893 | △ 1,020,494 |
| 負債合計 | 11,470,399 | 12,490,893 | △ 1,020,494 |
| III. 正味財産の部 | | | |
| 1. 指定正味財産 | | | |
| 指定正味財産合計 | 0 | 0 | 0 |
| (うち基本財産への充当額) | (0) | (0) | (0) |
| (うち特定資産への充当額) | (0) | (0) | (0) |
| 2. 一般正味財産 | 121,861,228 | 119,623,258 | 2,237,970 |
| (うち基本財産への充当額) | (0) | (0) | (0) |
| (うち特定資産への充当額) | (0) | (0) | (0) |
| 正味財産合計 | 121,861,228 | 119,623,258 | 2,237,970 |
| 負債・正味財産 | 133,331,627 | 132,114,151 | 1,217,476 |

正味財産増減計算書

2021年1月1日から2021年12月31日まで

(単位:円)

| 科目 | 当年度 | 前年度 | 増減 |
|----------------------|------------|------------|-------------|
| I. 一般正味財産増減の部 | | | |
| 1. 経常増減の部 | | | |
| (1) 経常収益 | | | |
| ① 受取会費 | | | |
| 学生会員会費収入 | 150,000 | 267,000 | △ 117,000 |
| 正会員会費収入 | 14,824,000 | 14,264,000 | 560,000 |
| 法人会員会費収入 | 6,600,000 | 6,550,000 | 50,000 |
| 受取会費計 | 21,574,000 | 21,081,000 | 493,000 |
| ② 事業収益 | | | |
| 研究発表大会収入 | 7,158,000 | 2,908,000 | 4,250,000 |
| 学会誌バックナンバー収入 | 15,000 | 12,728 | 2,272 |
| 論文別刷り収入 | 0 | 0 | 0 |
| 広告料収入 | 919,000 | 580,912 | 338,088 |
| 出版図書収入 | 35,000 | 31,822 | 3,178 |
| イベント収入 | 21,000 | 215,456 | △ 194,456 |
| 資格認定収入 | 144,000 | 203,637 | △ 59,637 |
| 九州支部収入 | 0 | 0 | 0 |
| 中国支部収入 | 0 | 0 | 0 |
| 中部支部収入 | 4,000 | 9,092 | △ 5,092 |
| 関西支部収入 | 0 | 0 | 0 |
| 国際会議収入 | 815,000 | 40,000 | 775,000 |
| 事業収益計 | 9,111,000 | 4,001,647 | 5,109,353 |
| ③ 雑収益 | | | |
| 受取利息 | 1,028 | 1,025 | 3 |
| その他雑収益 | 405,962 | 945,171 | △ 539,209 |
| 雑収益計 | 406,990 | 946,196 | △ 539,206 |
| 経常収益計 | 31,091,990 | 26,028,843 | 5,063,147 |
| (2) 経常費用 | | | |
| ① 事業費及び管理費 | | | |
| 会議費 | 1,545,964 | 208,225 | 1,337,739 |
| 旅費交通費 | 19,418 | 108,660 | △ 89,242 |
| 通信費 | 2,956,894 | 3,259,476 | △ 302,582 |
| 消耗品費 | 208,173 | 109,504 | 98,669 |
| 印刷製本費 | 2,722,809 | 3,258,907 | △ 536,098 |
| 賃借料 | 3,406,736 | 1,065,880 | 2,340,856 |
| 水道光熱費 | 131,006 | 119,517 | 11,489 |
| 地代家賃 | 1,257,156 | 1,142,880 | 114,276 |
| 諸謝金 | 203,370 | 22,248 | 181,122 |
| 租税公課 | 80,000 | 70,000 | 10,000 |
| 業務委託費 | 4,546,045 | 4,054,722 | 491,323 |
| 支払手数料 | 3,644,226 | 2,035,436 | 1,608,790 |
| 諸会費 | 2,815,762 | 2,830,353 | △ 14,591 |
| 雑費 | 880,522 | 99,031 | 781,491 |
| 国際会議開催費 | 3,871,227 | 1,122,319 | 2,748,908 |
| 20周年記念行事費 | 0 | 6,526,258 | △ 6,526,258 |
| TC 258 活動費 | 0 | 567,571 | △ 567,571 |
| 減価償却費 | 564,712 | 30,000 | 534,712 |

| | | | |
|----------------------|--------------------|--------------------|------------------|
| ②雑損失 | | | |
| その他雑損失 | 0 | 1,559,426 | △ 1,559,426 |
| 経常費用計 | 28,854,020 | 28,190,413 | 663,607 |
| 当期経常増減額 | 2,237,970 | △ 2,161,570 | 4,399,540 |
| 2. 経常外増減の部 | | | |
| (1) 経常外収益 | | | |
| 経常外収益計 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 経常外費用 | | | |
| 経常外費用計 | 0 | 0 | 0 |
| 当期経常外増減額 | 0 | 0 | 0 |
| 当期一般正味財産増減額 | 2,237,970 | △ 2,161,570 | 4,399,540 |
| 一般正味財産期首残高 | 119,623,258 | 121,784,828 | △ 2,161,570 |
| 一般正味財産期末残高 | 121,861,228 | 119,623,258 | 2,237,970 |
| Ⅱ. 指定正味財産増減の部 | | | |
| 当期指定正味財産増減額 | 0 | 0 | 0 |
| 指定正味財産期首残高 | 0 | 0 | 0 |
| 指定正味財産期末残高 | 0 | 0 | 0 |
| Ⅲ. 正味財産期末残高 | 121,861,228 | 119,623,258 | 2,237,970 |

財務諸表に対する注記

2021年1月1日から2021年12月31日まで

1. 重要な会計方針

(1) リース取引の処理方法

リース取引の処理方法は、リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンスリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっております。
当学会は会費収入が不課税となっているために、課税対象事業者とはなりません。
そのため、決算処理上は税込み処理として一部事業性のある活動以外は消費税を計上していません。

2. 会計方針の変更

該当ありません。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

該当ありません。

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

該当ありません。

5. 担保に供している資産

該当ありません。

6. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりであります。

(単位:円)

| 科目 | 取得価額 | 減価償却累計額 | 当期末残高 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| ソフトウェア | 3,635,775 | 564,712 | 3,071,063 |
| 差入保証金 | 1,200,000 | | 1,200,000 |
| 合計 | 4,835,775 | 564,712 | 4,271,063 |

7. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高

該当ありません。

8. 保証債務等の偶発債務

該当ありません。

9. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当ありません。

10. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

該当ありません。

11. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

該当ありません。

12. 関連当事者との取引の内容

該当ありません。

13. 重要な後発事象

該当ありません。

14. その他

該当ありません。

財 産 目 録

2021年12月31日現在

(単位:円)

| 科目 | 金額 | |
|------------------------------|-------------|-------------|
| I. 資産の部 | | |
| 1. 流動資産 | | |
| 現金預金 | | |
| 現金手許有高 | 54,000 | |
| 普通預金 三菱東京UFJ銀行 新橋支店 | 118,003,451 | |
| 未収会費 | | |
| 2021年度年会費 | 1,578,000 | |
| 2020年度年会費 | 899,000 | |
| 2019年度年会費 | 338,000 | |
| 2014年度年会費 | 16,000 | |
| 未収金 | | |
| 経費等他社負担分 | 3,764,408 | |
| 広告料 | 80,000 | |
| 学会誌 | 2,500 | |
| クレジット・コンビニ回収 | 2,597,708 | |
| その他未収金 | 16,000 | |
| 貯蔵品 | | |
| 出版図書 | 1,606,734 | |
| 前払費用 | | |
| 事務所賃料 | 104,763 | |
| 流動資産合計 | | 129,060,564 |
| 2. 固定資産 | | |
| (基本財産) | | |
| 基本財産合計 | 0 | |
| (特定資産) | | |
| 特定資産合計 | 0 | |
| (その他固定資産) | | |
| ソフトウェア | 3,071,063 | |
| 差入保証金 | 1,200,000 | |
| その他固定資産合計 | 4,271,063 | |
| 固定資産合計 | | 4,271,063 |
| 資産合計 | | 133,331,627 |
| II. 負債の部 | | |
| 1. 流動負債 | | |
| 未払金 | | |
| 株式会社正文社に対する未払額 | 284,127 | |
| 一般社団法人日本技術者教育認定機構 に対する未払額 | 100,000 | |
| 株式会社HISに対する未払額 | 5,838,304 | |
| 前受金 | | |
| 2022年度年会費 | 5,167,000 | |
| 2023年度以降年会費 | 48,000 | |
| 預り金 | | |
| 源泉所得税 | 24,968 | |
| その他預り金 | 8,000 | |
| 流動負債合計 | | 11,470,399 |
| 2. 固定負債 | | |
| 固定負債合計 | | 0 |
| 負債合計 | | 11,470,399 |
| 正味財産 | | 121,861,228 |

キャッシュ・フロー計算書

2021年1月1日から2021年12月31日まで

(単位:円)

| 科 目 | 当年度 | 前年度 | 増減 |
|-----------------------|-------------|-------------|-------------|
| I. 事業活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 1. 当期一般正味財産増減額 | 2,237,970 | △ 2,161,570 | 4,399,540 |
| 2. キャッシュ・フローへの調整額 | | | |
| ①減価償却費 | △ 3,071,063 | 30,000 | △ 3,101,063 |
| ②未収会費 | △ 109,000 | △ 405,000 | 296,000 |
| ③未収金の増減額 | △ 1,433,623 | △ 2,710,101 | 1,276,478 |
| ④貯蔵品の増減額 | △ 125,118 | △ 5,031 | △ 120,087 |
| ⑤その他資産の増減額 | 263,703 | 634,071 | △ 370,368 |
| ⑥未払金の増減額 | 1,737,006 | △ 4,575,459 | 6,312,465 |
| ⑦その他の負債の増減額 | △ 2,757,500 | 6,076,468 | △ 8,833,968 |
| 小計 | △ 5,495,595 | △ 955,052 | △ 4,540,543 |
| 事業活動によるキャッシュ・フロー | △ 3,257,625 | △ 3,116,622 | △ 141,003 |
| II. 投資活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 0 | 0 | 0 |
| III. 財務活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 0 | 0 | 0 |
| IV. 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 0 | 0 | 0 |
| V. 現金及び現金同等物の増減額 | △ 3,257,625 | △ 3,116,622 | △ 141,003 |
| VI. 現金及び現金同等物の期首残高 | 121,315,076 | 124,431,698 | △ 3,116,622 |
| VII. 現金及び現金同等物の期末残高 | 118,057,451 | 121,315,076 | △ 3,257,625 |

(注) 1. 資金の範囲 資金の範囲には、現金及び現金同等物を含めている。

当期末における正味財産の内訳は、次のとおりです。

(単位:円)

| 科目 | 前期末残高 | 前期繰越収支 差額処分 | 当期増加額 | 当期減少額 | 当期末残高 |
|------------|-------------|----------------|-----------|--------------|-------------|
| 国際会議準備金 | 10,000,000 | 20,000,000 | | 20,000,000 | 10,000,000 |
| 学会運営基金 | 65,000,000 | 5,000,000 | | 5,000,000 | 65,000,000 |
| 国際標準化活動準備金 | 5,000,000 | | | | 5,000,000 |
| 周年記念行事準備金 | 0 | 5,000,000 | | | 5,000,000 |
| | 0 | | | | 0 |
| 準備金計 | 80,000,000 | 30,000,000 | 0 | 25,000,000 | 85,000,000 |
| 差入保証金 | 1,200,000 | 0 | 0 | 0 | 1,200,000 |
| 繰越収支差額 | 38,423,258 | 8,423,258 | 2,237,970 | △ 25,000,000 | 35,661,228 |
| 正味財産合計 | 119,623,258 | 38,423,258 | 2,237,970 | 0 | 121,861,228 |

監査報告

私たちは、一般社団法人プロジェクトマネジメント学会の2021年度業務執行ならびに収支計算および財産の状況について監査いたしました。

監査の結果、業務は適切に執行され、かつ、決算報告書類は当学会の収支および財産の状況を適正に表示しているものと認めます。

2022年3月10日

監事 井沢 澄雄

監事 浦川 伸一

第3号議案 繰越収支差額処分

以下のように2021年度の繰越収支差額処分を提案します。

| | |
|-----------|-------------|
| 国際会議準備金 | 20,000,000円 |
| 学会運営基金 | 5,000,000円 |
| 国際化活動準備金 | 5,000,000円 |
| 周年記念行事準備金 | 5,000,000円 |
| 次年度への繰越 | 661,228円 |
| 合計 | 35,661,228円 |

注) 繰越収支差額処分案には、当期期首(予算)における準備金等取崩しに対する戻入が含まれています。

第4号議案 名誉会員（フェロー）選出

一般社団法人プロジェクトマネジメント学会定款第15条1項9号に基づき、以下の正会員を名誉会員とすることを提案します。

以下の正会員は、一般社団法人プロジェクトマネジメント学会名誉会員規則第3条2項に基づく学会への長年に亘る貢献が認められ、理事会において審議し、名誉会員に推薦すること及び次年度以降の会費を免除する件を理事会の総意として議決しました。

1. 以下の正会員を名誉会員「一般社団法人プロジェクトマネジメント学会フェロー」とすること及び次年度以降の会費を免除する件

足立 國功 氏（会員番号：1004236）

学会の設立当初より学会の活動に貢献

2003年より九州支部副支部長

九州情報サービス産業協会 会長

第5号議案 年会費免除者選出

一般社団法人プロジェクトマネジメント学会定款第15条1項9号に基づき、以下の正会員を定款第15条1項1号の定めによる年会費の免除者として提案します。

以下の正会員は、長年に亘り会員資格を継続されていることを鑑み、理事会において審議し、理事会として会費を免除する会員に推薦することとしました。また、これらの方には毎年、免除継続の同意確認を行います。

1. 以下の正会員を次年度以降の会費を免除する件

秋山 義博氏（会員番号：1000014） 1999, 2000, 2002年度 理事
山田 桂子氏（会員番号：1000070）
吉野 省三氏（会員番号：1000511）
岡本 和彦氏（会員番号：1002077）
近藤 哲生氏（会員番号：1002201）
飯野 正民氏（会員番号：1002619）
富士 隆 氏（会員番号：1005399） 元北海道支部長

（報告）

1. 以下の正会員は、一般社団法人プロジェクトマネジメント学会名誉会長規則第3条1項に定める名誉会長の条件の充足および学会への長年に亘る貢献が認められ、理事会において審議し、名誉会長に推薦することを理事会の総意として議決しました。
神田 雄一 氏（会員番号：1000020） 2005, 2006年度学会長

2. 以下の推薦理由の通り理事会において審議し、プロジェクトマネジメント功労賞に推薦することを理事会の総意として決議しました。
表彰対象：九州支部

推薦理由：2019年末から続くコロナ禍の中で、本学会の活動も大きな制約を受けてきた。本学会の活動の基本的な姿勢である「対面して等しく語り合う」の具現化にも大きな影響を及ぼし、海外開催を予定したProMACの中止、2020年度春季以降の研究発表大会のオンライン開催が続いていた。2021年度秋季大会を取り巻く環境も、決して楽観視できる状況には無く、その準備期間の全てに亘り対面開催の可否の審議をし続けると共に、関係自治体を含む各方面の意見を聞きながら、安全確保の上での対面開催の可能性を探ってきた。結果としてコロナ禍の波の間隙を縫う形での対面開催を実現させ、関係自治体の全面的な協力を得ることができたことは、プロジェクトマネジメントの視点からも特異と言わざるを得ない。

2022年度事業計画

1. 運営方針

我が国の成長戦略は、研究開発・イノベーション創出促進、グリーン・プロジェクトマネジメントと呼ばれるような省エネルギー・再生可能エネルギー投資の促進、デジタルトランスフォーメーションを目指したデジタル技術を活用した社会の革新や企業における新ビジネスへのチャレンジ等を期待しています。これらの事業の実施にプロジェクトマネジメントが必要なことは自明であり、これまでの複雑化、大規模化、グローバル化、デジタル化を伴う場で培ってきたプロジェクトマネジメントに新たなフィールドが与えられようとしています。このような時代の要請に対応するために、プロジェクトマネジメントの新たな展開が期待され、本学会の役割の重要性も強調されています。

また、現在のコロナ禍の影響を受けた社会状況が継続する中、会員とご家族、ご関係の皆様のご安全と安心、加えて、社会の一員たる本学会の使命を第一に考え、学会として定めた行動方針にもとづくとともに、社会状況の変化に合わせた事業遂行を実施いたします。このような厳しい環境においても、会員の皆様の活動に最大限貢献できるサービス水準の確保を目指し、努力を重ねて参ります。

本学会に与えられたミッションの達成、会員の利益に適う活動の実現に向けて、本年度の活動方針を以下のように定めます。

- I. プロジェクトマネジメントを通じた社会貢献の実践
- II. プロジェクトマネージャの地位向上、プロジェクトマネジメントの一層の普及に向けた幅広い議論の場の提供
- III. 学会の運営基盤の充実

これらの活動方針では、国際化の場に対する学会意見の提案、国内外関連団体との協調、国際会議 ProMAC の実施を通じた世界的協調の中でのプロジェクトマネジメントの啓発活動の実施および日本企業のイニシアチブの在り方を模索します。IPMA との連携を深めることにより、本学会の国内外におけるステータス向上を期すとともに、日本最大のプロジェクトマネジメント関連団体としての使命を果たし、国際的にも本学会の認知を広めていきます。

さらに、各種表彰活動を通じた傑出した個人の活動とベンチマークとなる企業等の諸活動の顕彰をこれまでの学会独自の活動に加え、IPMA が実施する国際表彰活動に拡大することで、これまで以上にプロジェクトマネジメントの議論の促進とプロジェクトマネージャの地位の確立の場を創成します。

2. 事業計画

- I. プロジェクトマネジメントを通じた社会貢献の実践
 - (1) 国際的な標準化活動等への積極的な関与
IPMA の活動を通して、国際標準化活動に貢献します。

(2) 国内の関連諸団体との協調

経営工学関連学会協議会(FMES)、日本技術者教育認定機構(JABEE)などプロジェクトマネジメント関連団体の活動に積極的に関与し、プロジェクトマネジメント学会の認知度の向上に努めるとともに、関連団体の情報を会員向けにフィードバックするよう努めます。

(3) 学会からの情報発信強化

研究成果やプロジェクトマネジメントに関わる知識の書籍化、セミナー、シンポジウム等の開催を積極的に進めます。これらのコンテンツには、IPMAの高水準かつ潤沢な知財の日本語化や標準カリキュラム、国際化動向、アジャイルなどの新しいプロジェクトマネジメントに関するキーワードを含みます。特に国際化動向においては、企業のベネフィット創造に関わる一連のフレームワークを示すPPP (Project, Program and Portfolio) マネジメントの考え方やPMコンピテンシ、EVMなどの国際化などと言ったグローバル視点からの最新情報の共有を積極的に進めます。

以上の活動は、主に、標準化検討委員会、教育・出版委員会、総務委員会 (IPMA 担当) で行い、339万円の予算を計上します。

II. プロジェクトマネージャの地位向上、プロジェクトマネジメントの一層の普及に向けた幅広い議論の場の提供

(1) 国際会議、研究発表大会などの開催と充実

国内研究発表大会と国際会議を通じて、プロジェクトマネジメント学会の会員の個人と企業組織の活動を発表する機会を提供していきます。本年度はIPMA World CongressとProMAC2022を11月に幕張メッセにて併催する予定です。これに先行してCoD(代表者会議)やGYCW(Global Young Crew Workshop)を日本に誘致します。これらの秋の催しに加え、春季研究発表大会をオンラインで開催することで、安全に配慮しながらも、本学会の運営の基本である「対面して等しく語り合う」を実現すべく、会員の皆様にとって有意義な大会となるよう準備を進めて参ります。

また、現在運用中の6研究会の開催時期などの事前通知を徹底し、会員の皆様に参加頂きやすい研究会運営に務めます。また、研究会フォーラムやワークショップの開催を積極的に進め、会員間での活発な議論の場を提供します。

(2) 国内支部の活動のさらなる活発化

支部の活発な活動は、学会の発展に必要です。支部がより活動しやすくなるように、総務委員会を窓口として、本部と支部との連携を強化します。

(3) 学会誌と表彰制度の充実

学会誌の充実に向けて、論文投稿や審査の仕組みを検討することで3か月以内の審査終了を目標とすることで、記事および研究論文の掲載量と質の向上を目指します。また、学会誌とニュースレターのデジタル化の取組みを進めます。PM実施賞各賞の受賞報告会や受賞内容の書籍化などを確実に実施し、会員の利益に資する活動の実現を目指します。

以上の活動は主に、論文審査・編集委員会、行事委員会、研究委員会、表彰委員会で実施し、そのために5,498万円(国際会議準備金取崩3,000万円を含みます)の予算を計上します。

Ⅲ. 学会の運営基盤の充実

(1) 会員利益の確保と会員数の増強

会員にとって魅力ある学会であり続けるための企画を積極的に実行することにより、既存会員の学会活動への参画を安定して維持できる運営体制の構築に努めます。

学会活動をさらに魅力あるものにするには、会員数の増加が不可欠です。また、より多くの分野との交流は、会員数の増加に直接的な効果を得るのみではなく、全会員の皆様の知識獲得に役立つものと思います。情報分野に限らず、土木・建設、機械等製品、食品、医薬等の分野への会員拡大に向けて、理事はもとより、委員会委員の皆様、会員各位と連携しながら会員数増強に取り組んで参ります。会員数増強と基盤整備の施策の実施に向けて学会運営基金を取り崩しの上、500万円の使途限定予算を計上しています。

(2) 各委員会の連携とサービスの充実

各委員会、支部の活動を活性化、拡大し、会員相互交流の場の創出と学問・技術の研鑽を支援し、学会の高度化を理事会一丸となって進めます。

以上の活動のほか、学会の総合的な運営は、総務委員会および本部運営管理室が中心となって行います。広報委員会を含め、2,291万円の予算を計上します。

3. 支部活動

(1) 四国支部

香川大学及び地域関連団体との交流を深め、支部地域の活性化につながる実践的な取り組みを紹介することで、活動の活性化と新規会員の獲得を目指します。支部総会の他に、支部研究発表大会、研究会（2回）の開催を計画します。

(2) 九州支部

各ワーキンググループによる研究活動ならびに 세미나などの支部活動を通じて、プロジェクトマネジメント学会への入会促進を継続します。

(3) 中国支部

地域におけるプロジェクトマネジメントの普及と啓発を図ることを目的として、プロジェクトマネジメントに関するセミナー(3回)を支部会員向けのサービスとして提供します。これらの支部会員向けのサービスを地元企業などにも宣伝し、非会員の参加を募ると共にプロジェクトマネジメント学会への入会促進を図ります。

(4) 中部支部

既存のBABOKとプロジェクトマネジメント研究会を継続し、支部地域のプロジェクトマネジメントに関わる技術力向上並びに人材育成などに取り組めます。支部総会の他に、トワイライトサロン（2回以上）、支部シンポジウムの開催や本部の研究発表大会への参加を通して会員増強に取り組めます。

(5) 関西支部

「学校への拡大、地域への拡大、研究会・運営委員会の充実」を柱に支部地域におけるPM技術の定着と技術者の育成、研究の進展に向け、会員各位の満足度の向上を目指した活動を進めて参ります。また、支部総会の他に、既存の3つの研究会を維持し、シンポジウム(2回)を開催します。

(6) 北海道支部

支部地域における学会活動の定着を図り、プロジェクトマネジメント学の普及を推進します。支部総会の他に、トワイライトサロン、支部講演会の開催を計画し、会員増強にも取り組みます。

各支部活動の主たる財源は、本部予算からの交付金によって賄われます。

2022年度予算

2022年1-12月予算案
収入と支出の概要

| 収入の部 | (単位:円) |
|-----------------------|------------|
| 会費収入 | |
| (正会員会費収入)1691名 | 10,822,400 |
| (学生会員会費収入)61名 | 146,400 |
| (法人会員会費収入)110社(115口) | 5,750,000 |
| 大会収入 | 0 |
| (春季研究発表大会) | 4,320,000 |
| (秋季研究発表大会) | 0 |
| 国際会議収入 | 20,000,000 |
| 学会誌バックナンバー売上 | 240,000 |
| 論文別刷り | 40,000 |
| 広告料 | 0 |
| 出版図書 | 300,000 |
| 四国支部収入(交付金:481,124円) | 0 |
| 九州支部収入(交付金:782,764円) | 0 |
| 中国支部収入(交付金:379,023円) | 0 |
| 中部支部収入(交付金:810,021円) | 170,000 |
| 関西支部収入(交付金:896,536円) | 220,000 |
| 北海道支部収入(交付金:278,908円) | 0 |
| 委員会イベント収入 | 37,000 |
| 受取利息 | 10,000 |
| 雑収入 | 50,000 |
| 受験料・登録料 | 2,250,000 |
| 国際会議準備金一部取崩 | 30,000,000 |
| 学会運営基金一部取崩 | 5,000,000 |
| 国際標準化活動準備金取崩 | 0 |
| 周年記念行事準備金取崩 | 0 |
| 除名会費取戻益 | 0 |
| 支部交付金引当金 | 0 |
| 繰越収支差額 | 2,334,931 |
| 収入合計 | 81,690,731 |

| 支出の部 | (単位:円) |
|-----------------|------------|
| 通信費 | 1,520,000 |
| 印刷製本費 | 2,717,000 |
| 消耗品費 | 137,000 |
| 給与手当 | 260,000 |
| 雑給(アルバイト) | 375,000 |
| 諸謝金 | 437,212 |
| 旅費交通費 | 450,000 |
| 会議費 | 825,000 |
| 業務委託費 | 4,600,000 |
| 支払手数料 | 2,502,728 |
| 諸会費 | 4,575,588 |
| 賃借料 | 1,500,000 |
| 地代家賃 | 1,200,000 |
| 租税公課 | 100,000 |
| 水道光熱費 | 150,000 |
| 雑費 | 668,334 |
| 支部交付金 | 0 |
| 寄付金 | 0 |
| 会員増強費・基盤整備費 | 5,000,000 |
| 20周年記念行事費 | 0 |
| 支部周年記念行事費 | 0 |
| 国際会議開催費(ProMAC) | 50,000,000 |
| 附属研究所活動費 | 250,000 |
| 減価償却費 | 0 |
| 雑損失 | 0 |
| 予備費 | 4,422,869 |
| | |
| | |
| 支出合計 | 81,690,731 |

※支部交付金合計は、3,628,376円ですが、資金の内部移動のため、ここでは0円が表示されています。

※各支部の前年度からの繰越金は、それぞれの雑費に加算計上しています。

※当期の期首準備金合計金額は85,000,000円ですが、当期の事業執行のために準備金から35,000,000円を取り崩しています。

結果、国際会議に30,000,000円、会員増強に5,000,000円が割当てられています。

この他に敷金・差入保証金1,200,000円があります。

参考 「22年の歩み」

| | 主な施策 | | 主な施策 |
|--------|---|--------|---|
| 1999年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・3月学会設立 ・学会誌, @PM. Letters 発行開始 ・研究発表大会開始 ・PM用語対訳集編纂 | 2011年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ISO/TC258 国内審議団体を日本規格協会と共同受託 ・関西支部設立 ・ProMAC Symposium 2011 主催 (バタム, インドネシア) |
| 2000年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・学会ビジョン策定 ・FMES 加入 ・大会併設のチュートリアル開始 | 2012年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・北海道支部設立 ・ProMAC2012 主催 (ホノルル, USA) |
| 2001年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・学会誌隔月刊化および特集化 ・学会ロゴマーク策定 | 2013年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・学会表彰(文献賞, PM 実施賞奨励賞, PM 実施賞エクセレントパートナーシップ賞)創設 ・ProMAC2013 主催 (ハノイ, ベトナム) |
| 2002年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本学術会議学術研究団体登録 ・四国支部設立 ・JABEE 加入 ・研究委員会フォーラム開始 ・設立3周年記念シンポジウム開催 ・ProMAC2002 共催 (シンガポール) | 2014年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ISO/TC258 京都会議開催 ・創立15周年記念式典開催 ・ProMAC2014 主催 (クアラルンプール) |
| 2003年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・九州支部設立 ・研究論文に「研究ノート」を新設 ・トワイライトサロン開始 ・PM 普及図書出版開始 ・法人会員特別セミナー開始 | 2015年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ProMAC2015 主催 (札幌) |
| 2004年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・PM 標準カリキュラム整備に向けた教育フォーラム開催 ・表彰制度策定 ・学会設立以来の学会誌・@PM. Letters の電子化 (DVD-ROM 化) ・学会ホームページのリニューアル ・ProMAC2004 開催 (幕張メッセ) | 2016年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・学会表彰(学生研究発表賞)創設 ・ISO/TC258 W4 東京会議開催 ・ProMAC2016 主催 (ゴールドコースト, オーストラリア) |
| 2005年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・中国支部設立 ・学会表彰(学会賞, 論文賞, 論文奨励賞) 開始 ・学会パンフレット作成 | 2017年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ProMAC2017 主催 (ミュンヘン, ドイツ) |
| 2006年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・西船橋に新事務所開設 ・ProMAC2006 主催 (シドニー, オーストラリア) ・九州支部シンポジウム開催 ・教育フォーラム 2006 開催開始 | 2018年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ProMAC2018 主催 (バンコク, タイ) ・中部支部 10周年行事開催 |
| 2007年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー・ボード創設 ・東京都港区新橋に事務所移転 ・代議員制への移行準備 | 2019年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ProMAC2019 主催 (ヤンゴン, ミャンマー) |
| 2008年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ProMAC2008 主催 (アンカレッジ) ・代議員制へ移行 ・中部支部設立 ・会員 3000 名を越す | 2020年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・創立 20 周年記念式典開催 |
| 2009年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人化 ・設立 10 周年記念行事開催 ・ProMAC Symposium 2009 主催 (バンコク, タイ) ・学会表彰 (PM 実施賞) 創設 | 2021年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ProMAC2021 主催 (熊本) |
| 2010年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ProMAC2010 主催 (幕張メッセ, 東京ディズニーリゾート) ・関西支部設立準備委員会設置 ・標準書「母体組織のプロジェクト推進機能」を発行 | | |